



自然な光が包むカウンター周辺



「地産池消」にこだわった一般品を、アクシアのLED照明がやさしく照らす



「J-遊佐沼店」は総台数555台。宮城・岩手県に5店舗を展開するジェイ商事が経営する。系列店でも「エコホール化」が進んでいるという。同店を照らすLED照明は、フィリップス社製のLED素子を使い、アクシアが自社開発したものの。その品質は折り紙付きで、同店でも不具合の報告は一切ない

アクシア > LEDレンタル

電気代高騰の東北でも大好評！ 初期投資ゼロのレンタルLED

東 日本大震災以降、電気料金

は上昇し続けており、東京電力では2012年4月に、企業向け電気料金において平均17%の値上げに踏み切った。各地の電力会社もこれに追随し、東北電力では、昨年9月から平均15.24%アップした新料金を適用している。

自店の照明をLED化することは、電気代高騰への対処を含めた、「省コスト化」の大きな要素となり、CO₂削減などの社会的要請に答えることにも繋がる。だが、一口にLED化と言っても、500台規模の既存店だと、店内外の照明を全部LEDに変えると、1000万円超の負担になる。重要なのは認識しつつも、導入に踏み切れないホールは少なくないだろう。

そんな店舗に勧めたいのが、初期投資0円で、すぐにも、エコホール化が可能となる、アクシアの「LEDレンタル」だ。アクシアのLEDレンタルは、「工事費を含め、初期費用が一切からない」「レンタル料は月々の電気代の削減分から徴収」「5年間の保証付きで、その間のメンテナンスが不要」「5年後には、ホールに無償譲渡される」など、スキームとなっている。

宮城県登米市の「J-遊佐沼店」では、このスキームを利用し、昨年12月5日、遊技エリアやカウンター周辺などの照明をLEDに変

更。同店の瀬川昌朗店長は「設備を購入するには、まとまった費用が必要だ。それを誰に負担していただくのか。エコ活動は大切ですが、それは、企業努力の部分で行うべきでしょう。そう考えたとき、アクシアのレンタルLEDが最適と感じたのです」と話す。

地域のコミュニティーとして人気を集める同店。一般品品では、地元特産品を多数用意するなど、地域活性化への思いは強い。それだけに、地元住民であるファンに負担を強いるような、自己満足のエコでは意味がないのだ。

さて、気になる電気料金の削減だが、前述の通り、東北では昨年、大幅な値上げがあったにもかかわらず、同店の冬場から現在にかけての電気代は前年とほぼ同等。確実に効果が表れているという。

一方、店内も以前の水銀灯にも増して明るくなり、LEDにありがちな、刺すようなギラつき、もないとのこと。これは、アクシアが開発した「拡散光学カバー」のおかげだ。同カバーは、照度を落とすことなく、LED特有のギラつきを抑えると同時に、空間全体を均一に照らし、自然光に近い明るさを生み出している。

瀬川店長は「以前は間引き点灯なども行っていました。やはり、ホールには明るい雰囲気が必要です。今年の夏は、明るさを損なうことなく、電力使用量の削減目標が達成できそう」と話してくれた。